

地質サイトカード

カードNo.		B-④-2		通しNo.	35	作成日	2025/4/30		
サイト名		平野をつくった ^{かんどがわ} 神戸川							
基本情報	エリア	出雲平野・宍道湖・中海低地帯 探訪サイト							
	区分	☒ 地質・地形		☒ 生態		☒ 文化			
	利用価値	☒ 科学		☒ 教育		☒ 観光・ツアー			
	所在地	出雲市ほか							
	アクセス								
	周辺施設	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☐ 駐車場(台) ☐ ウォーキングコース ☐ サイクリングコース ☐ 観光施設()							
	看板整備								
	留意点								位置情報
保護・保全	法規制・関連団体等	国土交通省出雲河川事務所							
	保全メモ								
サイトの解説	みどころ	三瓶山の噴出物を運搬するなど出雲平野形成に重要な役割を果たした河川。							
	地質・地形	神戸川は女亀山(めんがめやま、標高830.3m)を源流として、出雲平野へ下り、日本海にそそいでいる。流長82.4km、流域面積471.3km²で、かつては島根県管轄の2級河川だった。2006(平成18)年8月より斐伊川放水路(洪水時に斐伊川の水を分流する延長13.1kmの水路)を含む神戸川水系の全河川が1級河川斐伊川水系として管理されることになった。流域は南北に細長い形状をしており、長さに比べて流域面積が小さいのが特徴といえる。 上流部には三瓶火山があり、三瓶山から噴出した火砕流や岩屑に起因する大量の土砂によって神戸川の中・下流の谷が埋積された痕跡が残っている。そうした堆積物は徐々に下流へと運ばれ、大量の土砂を平野にもたらす結果となった。平野西部の地面を浅く掘ると、石英安山岩の礫がいたるところで見つけられる。三瓶山の火砕流起源の礫が堆積したものである。 神戸川上流部の飯石郡赤名や来島、頓原地区ではかつて「鉄穴流し」や「たたら製鉄」が盛んに行われていた。そのため神戸川の河原の砂の中には鉱滓が含まれていることがある。ただし、斐伊川流域に比べると、その生産量は少なかったため、神戸川は天井川とはなっていない。							
	歴史・文化 生物・生態等	『出雲国風土記』では神門川と表記され、アユ、サケ、マス、ウグイが生息していると書かれている。							
写真・図等									
参考文献		鹿野和彦ほか(1989) 大社地域の地質							